



平成 19 年 6 月 21 日

各 位

会社名 株式会社メディビックグループ  
代表者名 代表取締役社長 橋本 康弘  
(コード番号2369:東証マザーズ)  
問合せ先 専務取締役管理本部長 川井 隆史  
(Tel: 03-5510-2407)

## 「事業再構築プラン（新生 MediBic Group 2007）」の策定に関するお知らせ

当社グループでは、この度、以下の通り「事業再構築プラン（新生 MediBic Group 2007）」を策定しましたので、その概要をお知らせいたします。

### 記

#### 1. 「事業再構築プラン（新生 MediBic Group 2007）」策定の目的

当社では、2006 年 12 月期より、3 ヶ年の中期経営計画に取り組んでいます。その一環として計画初年度である 2006 年 7 月には変化の激しい経営・市場環境に対応するため、持株会社制への移行を実施しております。以降、当社グループの展開する主要事業（バイオマーカー創薬支援事業、創薬事業、投資・投資育成事業）に合わせて分社された各事業子会社では、市場環境とお客様のニーズに即応できる体制を構築するとともに、明確な責任と権限の下、運営を進めておりました。

その一方で、今期においては、主に以下三点の要因から株価の低迷が続きました。

第一に、これまでの当社の事業モデルについての説明不足が挙げられます。当社では、ライフサイエンス分野を中心とした投資事業を収益の柱としつつ、バイオ事業を着実に育てていくというグループの事業モデルに対し投資家の方々の理解を得られる様うまくお伝えすることが出来ませんでした。その結果、投資・投資育成事業は急速な成長を遂げたものの、当社グループにおける成長としては殆ど市場で評価されませんでした。

第二に、昨年 9 月に行われた資金調達が無効と認められ、投資家の方々からの理解を得られず、逆に株価の一層の低迷や財務の不安定化を招いてしまうことになりました。

第三に、共同開発を行っている抗がん剤開発に対する説明不足が挙げられます。開発を行っている抗がん剤 Glufosfamide は、当社グループでは、固形がんを対象とした国内第 I 相臨床試験を行っています。その一方で、共同開発先の Threshold 社では、米国中心に先

行して開発が行われていますが、今年 2 月、同社から発表された、すい臓がんの第二選択薬とした第Ⅲ相臨床試験の結果発表が、当社の株価に大きな影響を与えています。「生存期間の中央値が緩和療法よりも 3 週間延長したが、統計的有意差を得るまでには至らず。今後詳細の解析を行う予定」との発表内容でしたが、一部報道にて試験の最終的な結論が出ってしまったかのように報じられたことで、当社グループが国内で行っている試験に対する継続への不安が株価の低迷に繋がりました。

こうしたことから当社は、2007 年 3 月、当社のホームページにて「株主・投資家の皆様へ」のメッセージを発表し、今後の方向性についての見解を示しました。

第一に、バイオ事業についての一層の早期収益化を掲げました。また、それを目指すために、バイオ事業への経営資源の一層の集中や、大胆な M&A や提携戦略の検討を行うことについても発表いたしました。

第二に、財務の安定化を目指すことを掲げました。社長の橋本自身が、株式 1,875 株を取得し、当社グループに対するコミットメントを明らかにしました。

第三に、Glufosfamide の国内臨床試験の継続について発表いたしました。当社グループの行う国内第 I 相臨床試験は、非常に小規模な試験で、かつ共同開発先である Threshold 社も費用負担を行うことから財務負担が限定的です。また、当社グループによって米国での試験結果の分析を行っており、その結果を見ながら柔軟に対処することも決めております。このように Glufosfamide の将来性は引き続き見込めるとの認識から、試験継続を判断しております。

以上のことに関し、具体的な内容について検討を重ねて参りましたところ、本日、次の通り「事業再構築プラン（新生 MediBic Group 2007）」の発表を行うに至りました。

## 2. 「事業再構築プラン（新生 MediBic Group 2007）」

次ページ以降の「事業再構築プラン（新生 MediBic Group 2007）」をご参照下さい。

以 上

# 新生MediBIC Group 2007

株式会社メディビックグループ

2007年6月21日

[www.medibic.com](http://www.medibic.com)

証券コード 2369

## ■創業理念

## ■事業再構築プラン（新生MediBic Group 2007）

1. 「(株)メディビック・アライアンス」スピンオフ
2. M&Aを含めた戦略的提携によるテーラーメイド医療事業の強化・推進加速へ
3. 事業領域の絞込みと展開
4. キャッシュフローの安定化

## ■PG x ビジネスの展望

- ◇ PG x 基盤事業
- ◇ PG x ビジネスの現状
- ◇ PG x 基盤事業と知的財産
- ◇ PG x 中期目標
- ◇ グルフォスファミド開発状況
- ◇ 海外試験の状況と日本での今後開発の方針

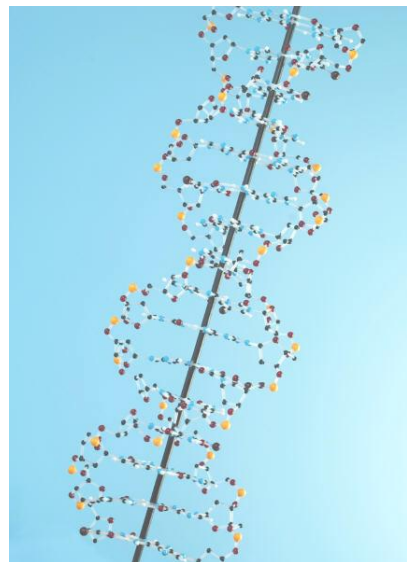
## ■業績見込みについて

- ◇ 決算修正について
- ◇ 将来Financial目標

## ■ 創業理念

# ■ 創業理念 ～ 個人に適した医療の実現に向けて

PGxを活用した医薬品開発の支援



資源の集中



提携とさらなる基盤強化



個の医療実現に向けた  
事業戦略の大きな見直し



## ■事業再構築プラン（新生MediBic Group 2007）

# ■ 事業再構築プラン(新生MediBic Group 2007)

## 1. 投資子会社「(株)メディビックアライアンス」のスピノフ

- ✓パフォーマンスは非常に良かったがマーケットの評価が低く、成長に必要な資金を市場から調達することができず、むしろ資金の固定化、資金繰りの厳しさにつながった。
- ✓バイオ企業としてのメディビックグループ(MG)に対して、本業に集中していないというネガティブな評価が高かった。
- ✓バイオ以外の有望投資案件が持ち込まれるようになり、シナジーが薄れてきた。

## 2. M&Aによるバイオ業界再編の核となる

- ✓バイオ業界において、各企業の1つ1つの技術は高いが点在しているため、ビジネスとはなりにくい状況。
- ✓上場会社であることは、VCのバイオに対する投資が停滞している現在かなりのメリット。

## 3. 事業領域の絞込み

- ✓事業領域が拡散したことにより、低収益、高コスト体質となっている。

## 4. キャッシュフローの安定化

- ✓若干の資金調達を行い財務体質を強化。一方、キャッシュフローは2008年からの黒字化を目指す。



# 1. 『(株)メディビック・アライアンス』 スピンオフ

## 背景

他社への売却とメディビック・アライアンス(MA)経営陣の出資による切り離しの両面で検討



非常に“個性的な”プロ集団 & ポートフォリオであり売却交渉は不調



## スピンオフ(切り離し)を選択

- ・MAの経営陣が出資することにより、MG比率を25%程度とする。(連結子会社→持分法適用会社へ)
- ・MAが現在投資しているバイオ関連企業からのキャピタルゲインは、MG貢献分として全体の20%を成功報酬としてMGが受け取る。
- ・貸付金は3年程度で分割返済、MGのキャッシュフローは確実にプラスとなる。MAの保有する有価証券は担保として保全を行う。

スピンオフしながらもUpSideは狙う

## 2. M&Aを含めた戦略的提携によるテーラーメイド医療事業の強化・推進加速へ



### PGx事業を補強を目的とした短期的戦略パートナー企業のターゲット

- ・遺伝子、たんぱく質、代謝産物を解析する技術や、診断・検査事業を持つ企業
- ・長期的には個の医療、個の健康に関与する分野の企業が戦略パートナーのターゲット
- ・M&Aだけでなく、戦略的提携も考慮

インフラを強固にしつつ、医療・健康マーケットへ

## 3. 事業の絞込みと展開

### 事業領域の絞込みと展開

短期 - PGxおよびPGxに関する製品並びに技術提供

PGx事業で培ったデータ解析の最適化技術(ソフトウェア販売)

中・長期 - 一個の医療を目指した事業

予防医療や診断サービス、診断薬など

### コスト削減

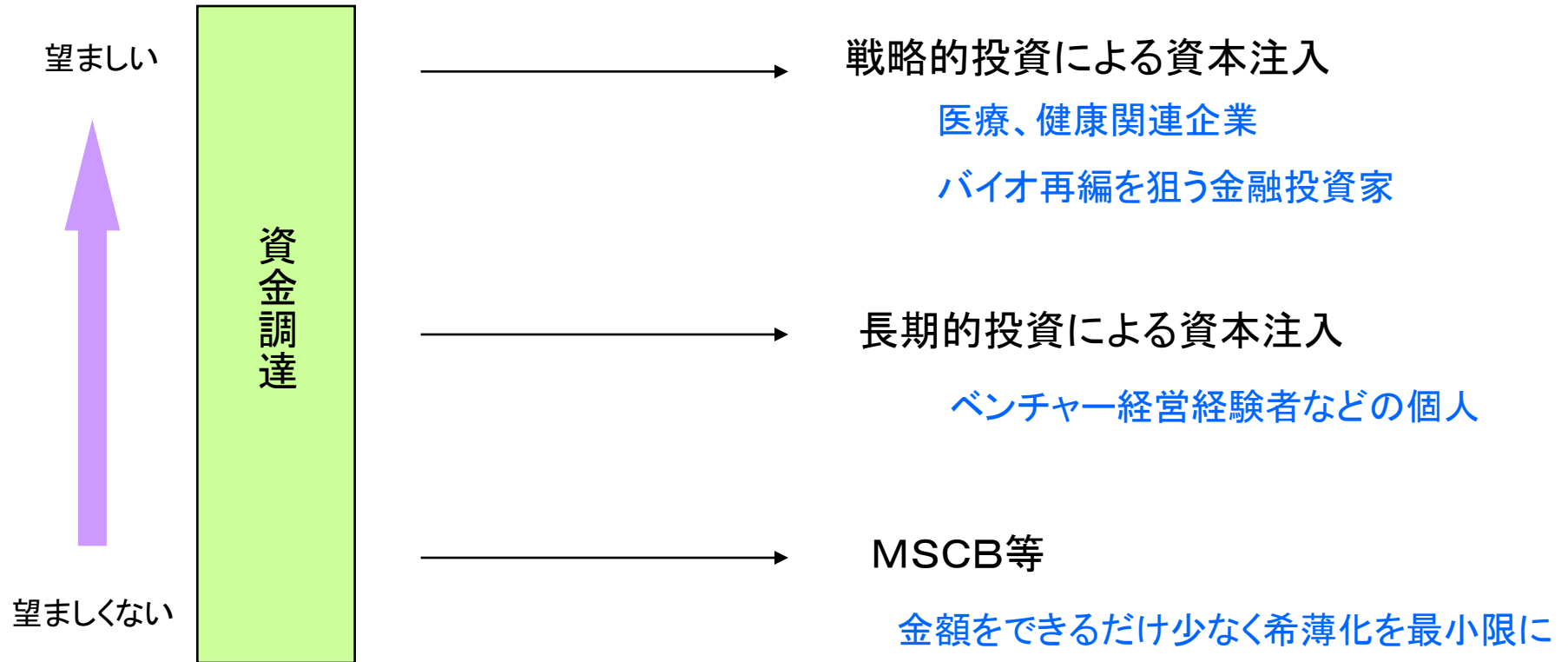
海外拠点の縮小(オフィス移転、人員削減)

Glufosfamide国内第I相臨床試験(PI)終了後は創薬事業は原則的にパートナー  
に委ねる

オフィス移転(家賃30%削減)

年間2億円程度固定費を削減し、2008年黒字化を目指す

## 4. キャッシュフローの安定化



既存株主様への利益を出来るだけ配慮しつつ、多方面に接触中

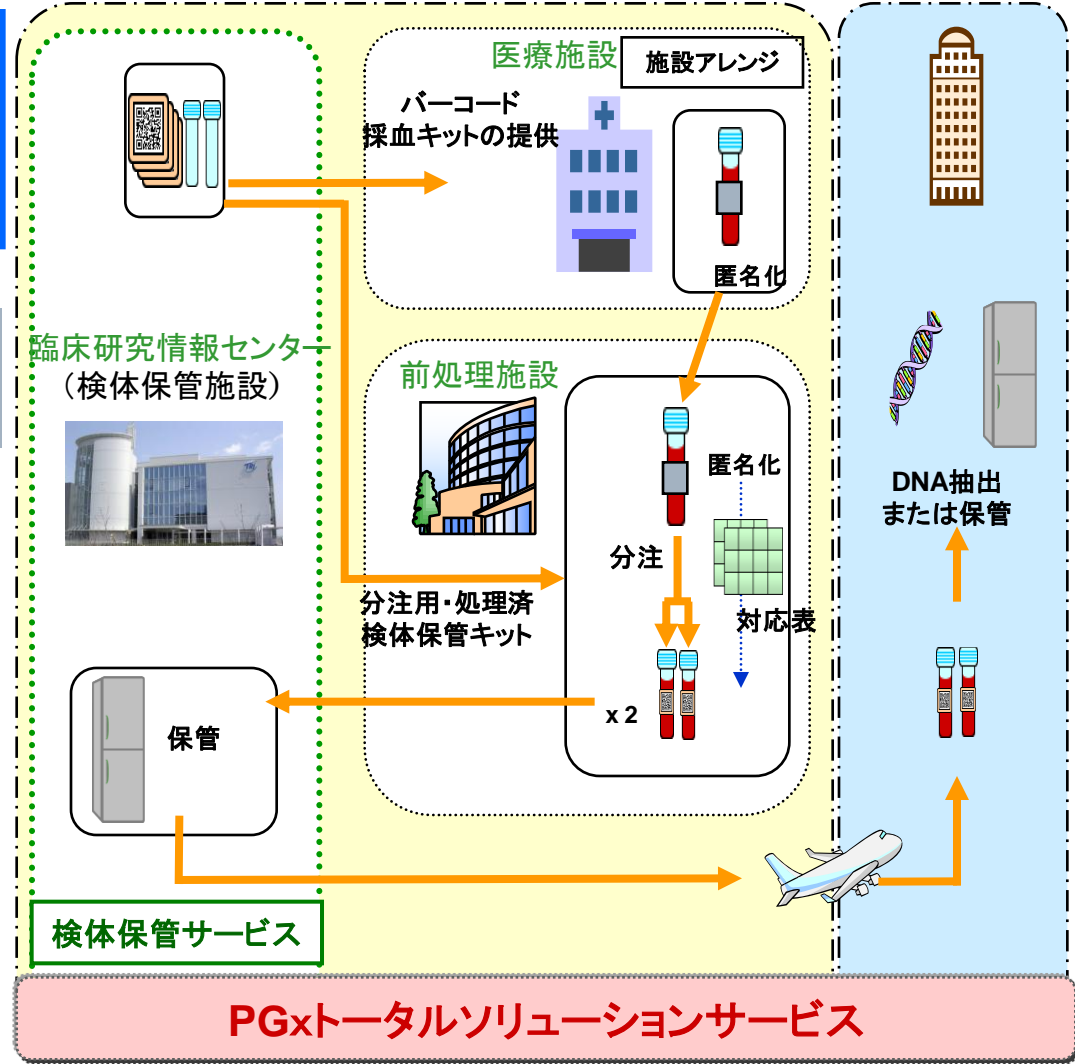
## ■PG x ビジネスの展望

# ◇ PGx 基盤事業

**GLP準拠のPGx全過程構築**  
 (サンプル集荷からDNA解析まで)

神戸市財団と検体保管施設の共同事業  
 公的検体保管施設のGLP運用

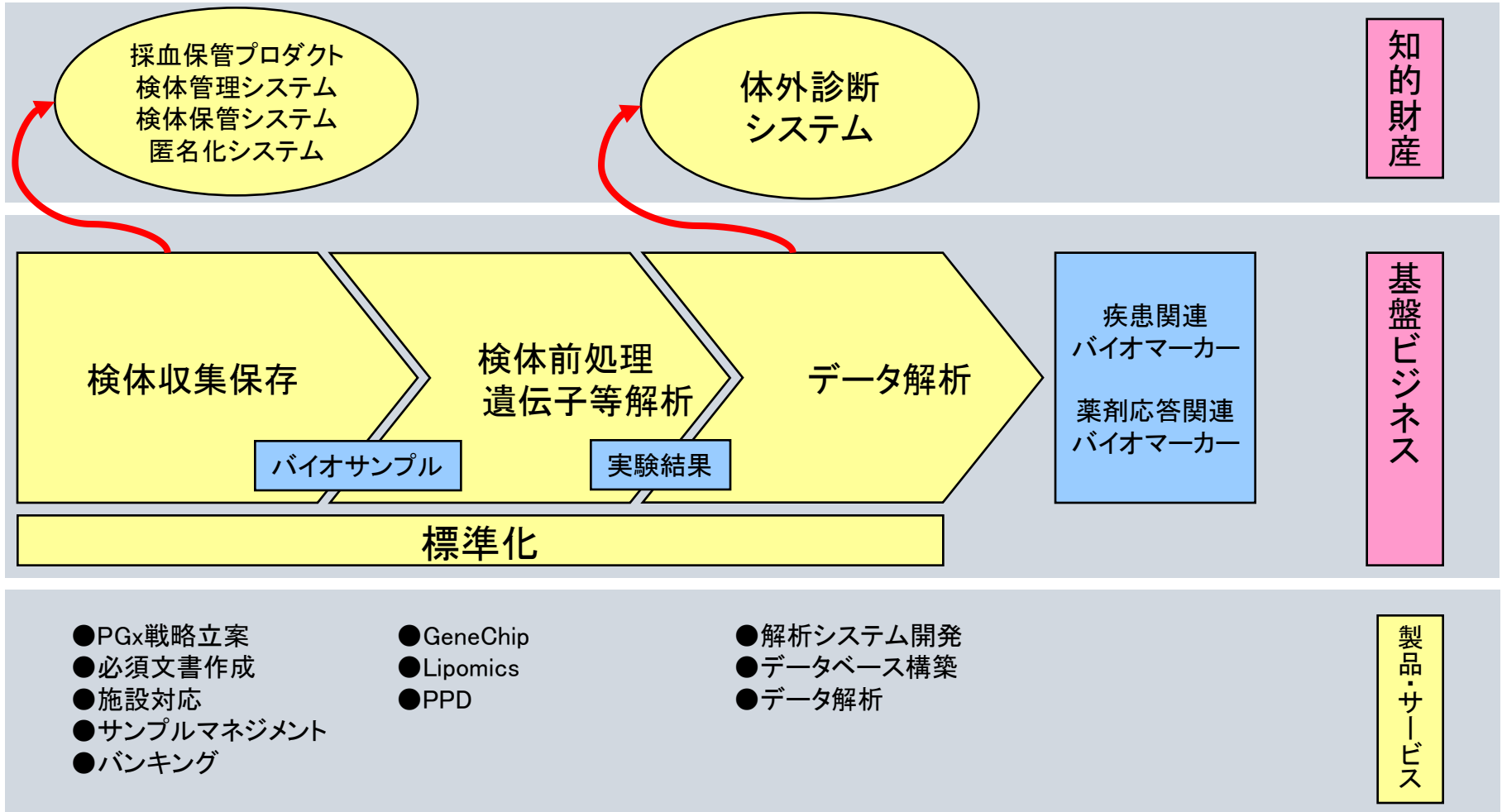
- ・独自の符番体系による  
 検体の取り間違えの防止
- ・当社独自の匿名化システムの提供
- ・独自の検体管理システムや  
 トラッキングシステムによる  
 グローバルな検体輸送
- ・世界有数の検査企業との提携



## ◇ PGx ビジネスの現状

2006年～(現在)			
業務委託基本契約	国内製薬企業	2社	
	外資系製薬企業	1社	
	その他	1社	
業務委託契約		グローバル試験	国内試験
	(業務定義中)	2試験	2試験
	試験準備中	1試験	2試験
	現在進行中	-	3試験
	完了	-	2試験
	計	3試験	9試験

# ◇ PGx 基盤事業と知的財産





# ◇ PGx 中期目標

治療から予防医療へ

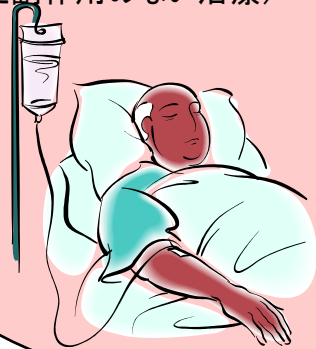
短期目標

PGxトータルソリューション

創薬

中期目標

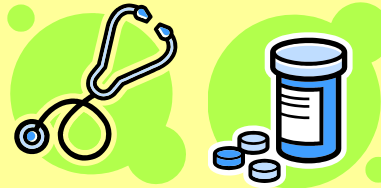
バイオマーカーによる診断方法(薬)による患者の層別化(=個々人にあった副作用のない治療)



医療

中長期的ゴール

バイオマーカーによる診断方法(薬)による健常人の層別化(=個々人にあった予防)および予防指導



健康

# ◇ グルフォスファミド (GLFS) 開発状況



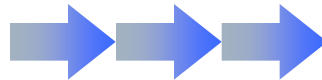
米国 (Threshold)

日本 (MediBic)

Phase I Phase II Phase III

Phase I Phase II Phase III

すい臓がん対象  
(緩和療法群との比較)

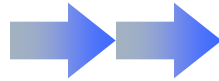


すい臓がん対象  
(ゲムシタビンとの併用)

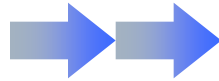


固形がん対象

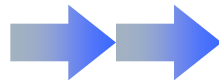
卵巣がん対象



肺がん対象



軟部組織肉腫対象



米国スレッシュホールド社と共同開発

# ◇ GLFS 海外試験の状況と日本での今後の開発方針

## [海外試験の結果]

### 1. すい臓がんPhase III 試験

(2007年2月プレス)

#### 有効性

- 全生存期間: GLFS投与群の方がGLFS非投与(緩和療法)群より、3週間長かったが、統計的有意差を得るには至らず
- 抗腫瘍効果: 現在解析中

安全性: 特に問題なし

### 2. すい臓がんPhase II (GEM併用)

(2006年12月プレス)

#### 有効性

- 抗腫瘍効果: 部分奏効21%、病勢の安定36%

安全性: 特に問題なし

→ 2007年第3四半期に最終結果発表予定

## [国内での検討結果]

- ✓ これまでのデータから**有効性が推測**できる
- ✓ **バイオマーカーにより有効性の高い患者グループを特定**ができる可能性あり
- ✓ 有効性については**人種差のある可能性あり**
- ✓ **併用療法としての効能**を取得できる可能性あり

国内  
PI  
継続

(2007年3月プレス)

## 国内第 I 相臨床試験 (PI) (2007年1月プレス)

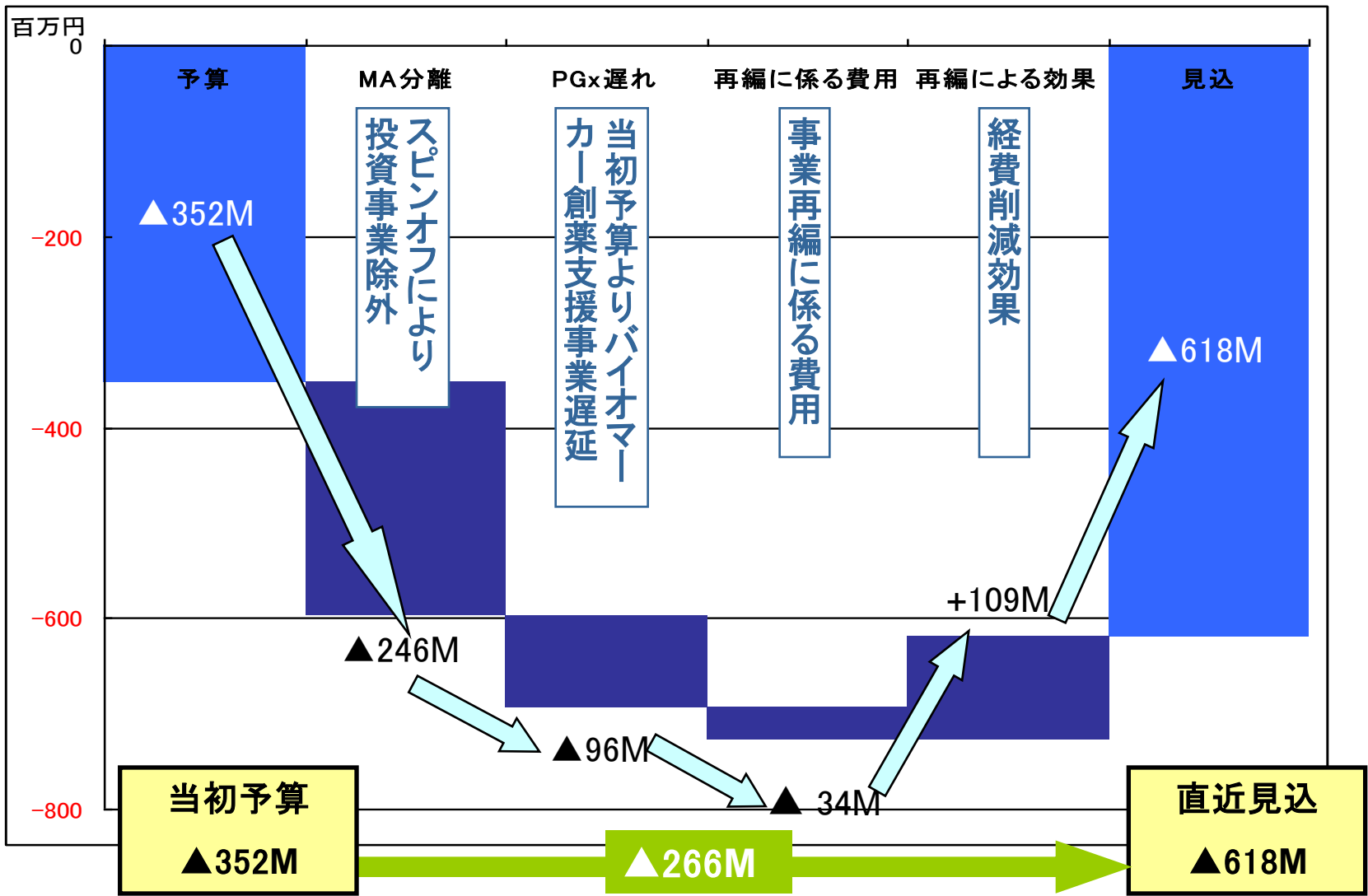
- 固形がんの患者さんを対象に、主に安全性評価及び今後の臨床推奨用量の検討を行う
- 終了まで約1年を予定

将来的には、テーラーメイド創薬の概念に基づいたバイオマーカーによる被験者の最適化を検討

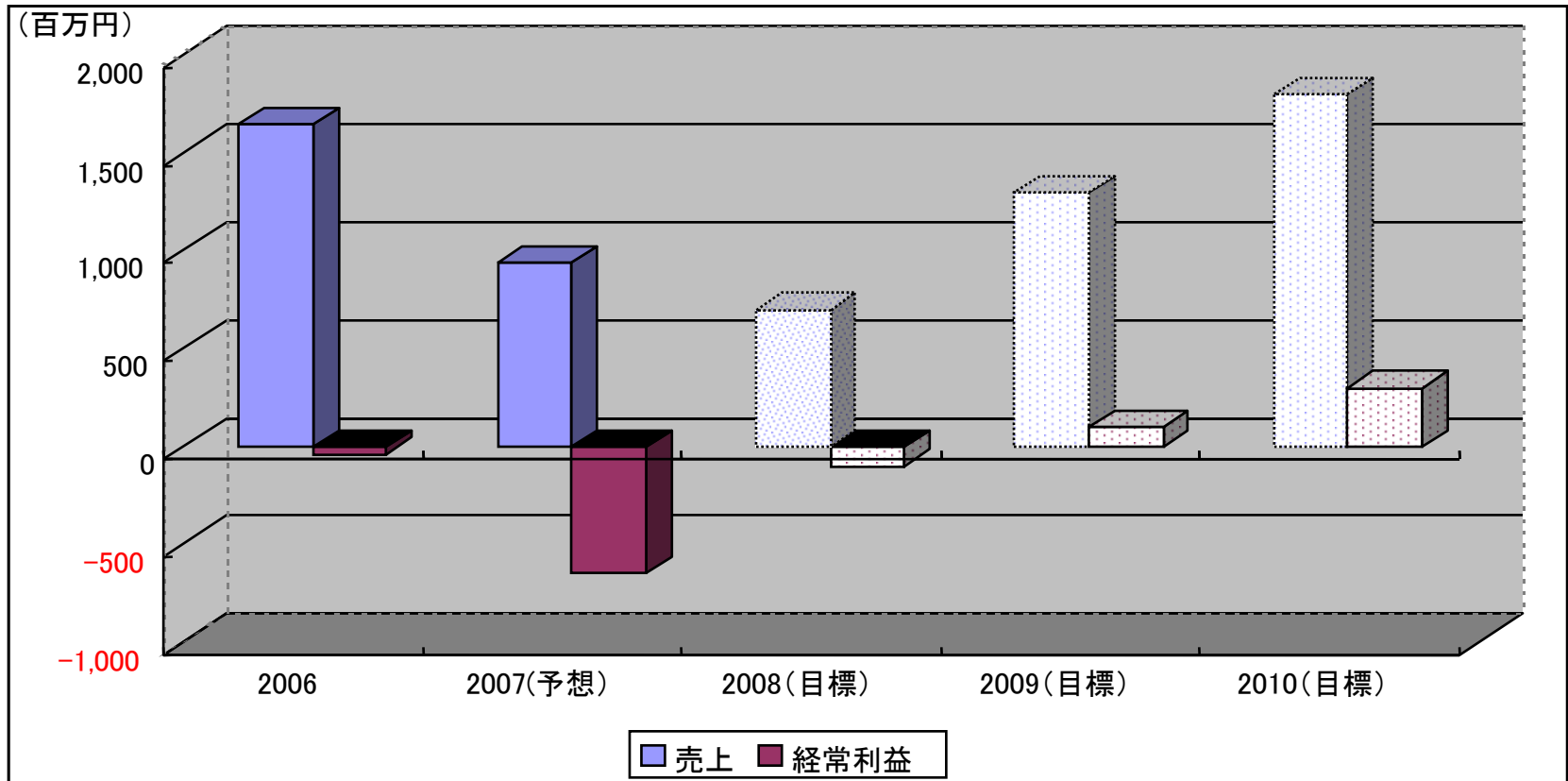
PII 以降はパートナー主体の開発

## ■業績見込みについて

# ◇ 決算修正について（経常利益増減分析）



# ◇ 将来Financial目標



2007年からのV字回復を狙う

# 株式会社メディビックグループ

## www.medibic.com

### ◇ 当資料取り扱い注意点

本資料に記載されている、当社または当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事業の認識、評価などといった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に係わらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。